

授業評価結果等

平成29年度 卒業時の学生によるカリキュラム評価報告

現行カリキュラムおよびシラバスの構成と内容の評価を目的として、すべての授業科目が終了した、平成30年1月19日に、「卒業時の学生によるカリキュラム評価」について無記名の質問紙調査を実施した。昨年度の調査票より、教育目標に対する学修の到達状況を問う項目を「学生の学修成果把握のためのアンケート」へ集約し、本調査票は23項目とした。100名へ配布し、84名から回答を得た(回収率84.0%)。

アンケートの結果は量的に解析し、自由記述については、内容の類似性に基づいて分類し、まとめた(資料1)。

1. カリキュラム及びシラバスの構成と内容の評価

「そう思う」及び「ある程度そう思う」を合わせて80%を超えた項目数は、23項目中16項目であった。80%未満の評価であった項目は、「国外の看護実践に目を向ける学習内容」(54.7%)、「国際的保健・医療活動に目を向ける学習内容」(63.1%)、「1学年次前・後学期の授業科目の配置」(67.9%)、「2学年次前・後学期の授業科目の配置」(78.5%)、「3学年次前・後学期の授業科目の配置」(78.5%)、「4学年次前・後学期の科目の配置」(77.3%)、「実習の開講時期」(73.8%)であった。

科目の位置づけや科目間のバランス、学習内容、シラバスの記載に関する項目については、「そう思う」「ある程度そう思う」と評価した学生が80%を超えており、学修内容については高い評価であった。80%未満の評価であったものは、学年別の科目の配置に関する内容であり、特に1学年次の科目配置については、「そう思わない」と評価した学生が5名(6.0%)おり、低い評価であった。

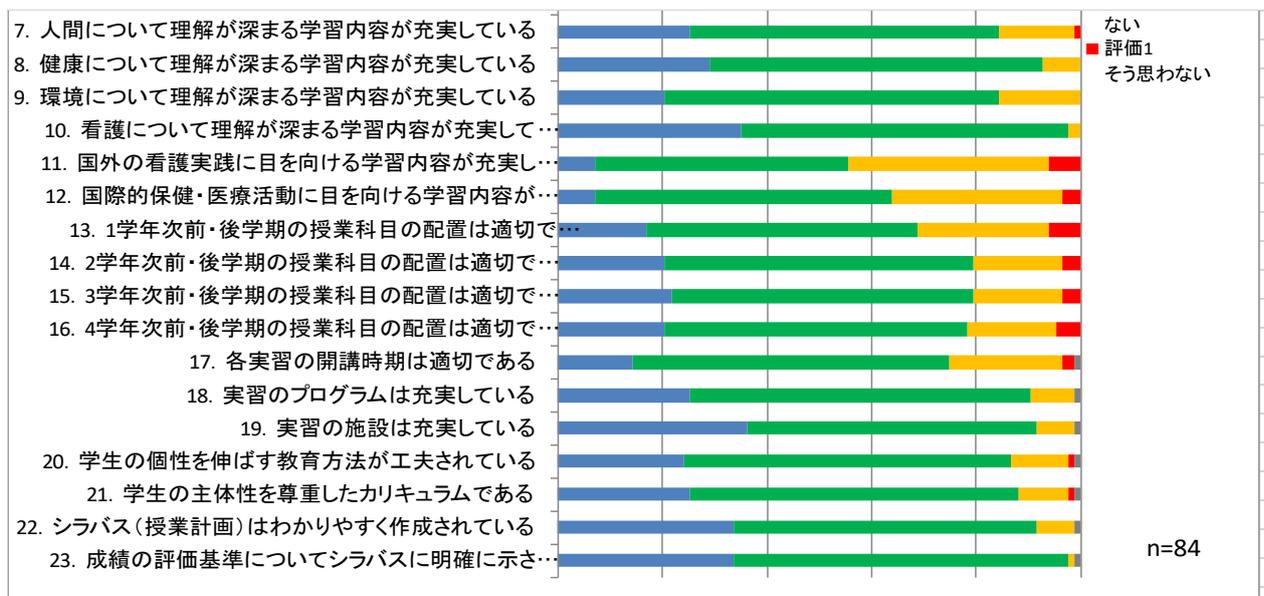
2. 看護学部での教育に対する意見・要望(自由記述)

回答のあった84名中21名(25%)から自由記載の意見があった。内容は、「カリキュラムの内容や進行に関する意見」、「出席管理(打刻システム)に関する意見」、「教員に関する意見」、「その他」に大別できた。

その中で、「カリキュラムの内容や進度に関する意見」が最も多く、そのほとんどが科目配置や実習配置を各学年次毎にバランスよく配置して欲しいという意見であった。他は、4学年次にもっと国家試験の勉強時間が確保できるようにして欲しいといったことや、保健師課程の実習時期をもっと早めて欲しい、看護研究(卒業研究)を必修にして欲しかったという意見などがあった。また、他大学と比べると自主性がかなり尊重されていてよいカリキュラムだと思うという意見もあった。

「出席管理に関する意見」では、打刻システムに関するもので、打刻システムが厳重すぎるので、学生証を忘れたときでも対応してくれる制度が欲しかったという意見に代表された。「教員に関する意見」としては、提出期限を過ぎた成果物に対する対応に関して、教員の対応を統一して欲しいという意見、特に実習において教員によっての意見の違いがあるので統一して欲しいという意見があった。

「その他」として、国家試験を受けてから評価したいという意見と、卒業試験の解説では、自己学習のために問題を配ってほしいという意見があがっていた。



自由記載欄まとめ

1. カリキュラムの内容や進行に関する意見

- ・他大学と比べると自主性がかなり尊重されていてよいカリキュラムだと思う。
- ・科目配置や実習配置を各学年ごとにバランスよく配置して欲しい。
- ・実習をできるだけ3年生まで終わらせてほしい。
- ・解剖実習が看護にどうして必要なのか、また、生理学・生化学との関連が分からないままだった。
- ・1年生での解剖実習は、解剖生理学についてもう少し勉強した後に行った方が理解が深まると思う。
- ・看護研究(卒業研究)を必修にしてほしい。
- ・公衆衛生が2年の授業だったので、国家試験までにあった制度の変更など、自らキャッチアップすることが大変だったのでフォローしてほしかった。
- ・他大学は3年生までほとんど実習が終わって国試対策に入っていたので、あせるなあと感じた。
- ・保健師の実習がもう少し早い時期だと就職先の選択の幅が広がると思った。
- ・保健師の実習は夏休みの前がよい。
- ・保健師課程の実習をもう少し早めにやってほしい。
- ・愛知医大大学病院への就職については有利で良いが、他病院に就職する対策などのサポートについては不十分だった。

2. 出席管理(打刻システム)に関する意見

- ・打刻のシステムが厳重すぎると思う。学生証を忘れたときでも対応してくれる制度が欲しかった。
- ・打刻のシステムがめんどくさかった。

3. 教員に関する意見

- ・課題提出の時間を守らなかった学生が合格になることなど、不信感を覚えた。
- ・卒業試験の解説では、試験問題を配ってほしい。

4. その他

- ・国家試験を受けてからカリキュラム評価をしたい。

3. カリキュラム及びシラバスの構成と内容の評価

学修の質保証を目指すシラバスについて、平成 29 年度からシラバスの構成と活用方法の検討を重ねてきた。看護学士課程教育の教育内容とともに、成績評価法、厳格な成績評価を行う仕組みの導入によって各学年次及び卒業時の学生の質を検証・確保するための方法の適切性は、継続的に検証する必要がある。

また、教育改善への組織的な取り組みとして、学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための措置、授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性について検討を重ねる必要がある。

自由記述にある、「そう思う」及び「ある程度そう思う」を合わせて80%未満の評価であった「国外の看護実践に目を向ける学習内容」と「国際的保健・医療活動に目を向ける学習内容」の2項目については、各科目に、学生が国際的な思考性を育むことができるように意識して教授していくことが必要である。

シラバスの編集を通してカリキュラム・ポリシーの重要性を教員が共通の課題として認識し、カリキュラム整備を通じた教育改善へとつながるPDCAサイクルを展開していく必要がある。

4. 学生によるカリキュラム編成に対する意見・要望について

本学部のカリキュラム編成は、効果的な学習を促すための科目の順序性と全体の配置のバランスを検討した上で成立している。カリキュラム評価については、「他大学と比べると自主性がかかなり尊重されていてよいカリキュラムだと思う」という学生の記述もあるが、「科目配置や実習配置を学年毎にバランスよく配置して欲しい」という記述も複数ある。こうした意見については、科目配置・実習配置の意図を、学生が理解できるレベルで説明する等の対策が必要である。カリキュラム編成の見直しは、教員の意見も集約したうえで、各科目・実習等の教育内容を相互の関係で捉え、教育目標を踏まえたカリキュラムの横断的な視点で評価し、改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する必要がある。

5. 今後の課題

本学部では、カリキュラム評価について、アンケート調査を主として行ってきた。教育上の効果を測定するための方法の適切性、及び教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みを導入していく必要がある。